

英語を楽しく

私が、中学校で英語を習っているとき「受動態」という今まで聞いたことのない言葉が、妙に印象に残っている。「受動態」の学習をしているときに能動態（これも聞いた言葉ではないが）から受動態にするのがおもしろくて楽しかった記憶がある。でも、なぜ「受動態」の形にするのかわからなかった。でも、遅まきながら〇歳になってやっとわかったのです。「受動態」の形にするのわけは、

- ① 行為をする者（つまり by 以下）を出す必要のないと思うとき
- ② 行為をする者を出したくないとき
- ③ 行為をする者がわからないとき

例えば

Tom broke the computer.

The computer was broken (by Tom).

- ①の時 コンピューターが壊れたことが重要問題。だから、Tom を出さない。
- ②の時 トムにしても自分が壊したとは言われたくないから出さない。
- ③の時 郵送されてきたの箱を開けて見るとすでにコンピューターが壊れた状態にあった。でも、なぜ、誰が壊したのかかわからないので出せない。

ということになります。

ですが、最も気をつけたいことは、初めに能動態の文があってそれを変換したのが受動態の文でないということです。

私が中学校で学んだとき、よく試験に

「英語文の能動態は、受動態に変えるとどうなりますか？」

といった問題が出ましたが、単に態を変える正しく変えられるだけでなく、表現上、受動態で表わすことが必要。或いは その方が自然な言い方だから受動態にする、ということをもっと早く知っていたらと思います。

アメリカ人にしても、自分の言いたいことをまさか、

「ん、〇〇〇〇ということと言いたいけれど、能動態で言おうかな？それとも受動態で言おうかな？」

なんて考えて言っているはずはありません。言いたいことを言い表したら（日本人から見ると）受動態になっているというだけです。

中学校では、能動態→受動態、受動態→能動態の練習をよ～くさせられたけど、変換するとき、なぜか楽しかった。きっとあれは日本語には無い言い方だったからだろう、と思う。

